



第十一號



官許
琵琶湖新聞

定價三錢五厘

明治六年第六月

西垣文庫
文庫10
7374
11



緒言

新聞ノ徳タルヤ大ナリ内知見ヲ闡キ外事業ヲ施シ
 不知不識文明ノ域ニ進ミ開化ノ室ニ入り上下言路
 ヲ通ジ勸懲善惡ヲ判ス故ニ
 官許シテ天下ニ公ニスル所以ナリ庶幾ハ四方ノ君
 子上公裁ヨリ下俚言ニ至ルマデ續々記載シ吾社ニ
 投入シ玉ハンコトヲ是今日ノ必務ニシテ開明ノ徳ニ
 報ズル所以ナリト爾云

西頭文庫



琵琶湖新聞第十一號

般諸府縣知事令參事等ヲ復

皇居へ召セラレ左ノ如ク 勅諭アラセラル

勅詔

朕惟フニ方今國ノ未ダ開明セザルニ當テ汝等地方ノ
 官ニ任シ人民ヲシテ朕ガ意ノ在ル処ヲ信奉セシメン
 トスルヤ其勞勩想フベシ夫レ善ク斯民ヲ諭導シ各其
 所ニ安ンゼシムル固ヨリ牧民タル者ノ職ニシテ其任
 甚重シト云ベシ汝等其レ能ク旨ヲ体シテ努力セヨ

○東京新聞ニ頃日教導職ニテ婦人ノ内学問ト才藝ニ
富メル者ヲ選舉シ以テ教員ニ補スルヲ左ノ如シ

東京府下商

一月廿日 補權訓導 横田 花 五十七才

濱松縣士族小原勇助祖母

一月三十日 同断 小原燕子 四十三才

入間縣下田中忠三娘

三月九日 同断 田中 角 十五才

山梨縣下内藤傳左門母

四月廿九日 同断 内藤まゐ

京都府下迹見振當女

五月十三日 同断 跡見花蹊 二十八才

京都府華族万里小路博房女

五月廿七日 補大講義 万里小路良子 十六才

記者曰婦人ノ教員ニ補スル既ニ斯ノ如シ是開明ノ
時勢ニ適當シ凡百ノ学事日新月异盛見ルベシ當國廣
シト雖モ未ダ戈学ニ秀ツルナキヤ慨歎ス冀ハ餘國
ニ劣ラズ勉学戈學シテ秀逸タランヲ况ヤ男子ニ
於テヲヤ

○ 浅井郡三河村 田中治良兵衛

右之者儀同郡野瀬村松井重良右衛門外四人ヨリ貸金
滯出入出訴ニ及ビ吟味ノ上身代限申付ルニ付若田中
治良兵衛へ掛リ同様ノ願有之者ハ當六月三日ヨリ来
ル八月二日迄日數六十日ノ内ニ可申出右日限過去訴
出ルニ於テハ此度ノ割賦ニハ不差加者也
右揭示スル者也

滋賀縣令松田道之代理

明治六年六月三日

滋賀縣參事榊原 豊

滋賀縣權參事籠手田安定

○甲賀郡第九區虫生野村六十番屋敷豊田錠太郎名妻

ト云ヘルハ齡廿一才ニシテ祖母夫婦ノ間ニ一女子ア
リテ農タリ其人トナリ温順篤行其父美稻ハ藤本鎮石
ト與ニ勤 王ヲ以テ世ニ鳴リシニ終ニ奸人ノ手ニ墮
リ志ヲ果サズ妻其志ヲ繼ント欲シ文学ニ志シ東京ニ
在リシガ昨冬祖母愛慕シテ呼還セリ妻ヤ頭刀ノ志シ
無シト雖モ夙ニ雙親ニ離レ孤身祖母ニ育セラレ恩義
厚キヲ以テ帰郷シ孝艱ヲ盡シケルガ當明治六年六月
一日親族へ左ノ遺書シ其他親友へモ書翰ヲ認メ置キ
ゲル砲ヲ以テ咽喉ヲ貫穴シテ自盡セリ依テ貴社ニ依
賴シ妻ガ友人ニ廣告アランヲ乞フ

親族へ遺書ノ寫

豊田 斐

親族一門ノ足下ニ白ス予長ク御厚恩ヲ蒙リ千萬難有
 奉伏謝候陳ハ拙者當家ニ在テハ家産日ニ衰弱ニ至ル
 實ニ祖先へ對シ恐レ多ク候間断然自盡仕候何卒々々
 自今又一層ノ御盡力被下當家相續相成候様伏テ奉希
 望候○今ヤ文明日新ノ時ニ際シ男兒タル者豈徒然ト
 シテ光陰ヲ費スハ腑腸ヲ九断スルガ如シ況ヤ斐ガ亡
 父美稻早ニ勤王ノ志シアツテ遠ク棄梓ヲ離レテ東
 西奔走シ半途ニシテ奸人ノ手ニ陥リ不幸其志シヲ伸
 ルヲ不得シテ斃ル斐一念是ニ到ル毎腑腸九断血淚滿

胸已止スルヲ不知故ニ自今奮發シ學ニ勉メ事物ヲ窮
 理シ以テ九牛ノ一毛ナリテ國家ニ報ジテ以テ父美稻ノ
 志ヲ繼ント欲スレバ祖母親戚安ゾ是ヲ許サンヤ實ニ
 忠孝兩全ノ策無シ進退是ニ窮ス故ニ自盡シ四方ニ謝
 ス請フ怪ム勿レ斐謹言頓首再拜

六月一日

豊田 斐

- 種村 與 七 様
- 水野 幸右衛門 様
- 服部 源三郎 様
- 寺井 九兵衛 様

御親族中様

次第不同ヲ謝ス

○辞世

二十年来耕寸田 空消日月恨綿々

青山暗澹正陽夕 不報天恩入九泉

ふふむのりあひことほきをばんし

きゆり今れおしりもあふう部

ちつしきもせわしきうく様う部

正

論者曰世ノ父兄愛ニ溺^スレ子孫ヲシテ矇昧頑愚ニ陥^スレ甚シキハ妻ガ如キ已ニ黄泉ニ赴^スカシム注意セズンバ有ベカラズ妻ヤ忠孝ノ志厚ク両全ノ策無シ進退窮スト云テ自盡ス是レ尊長ニ不教ノ責アリ妻ニ不盡ノ罪アリ如何トナレバ修学半途ニシテ愛ニ溺レ偏境ニ呼^ビ還^ルシ学業ノ萌芽ヲ摘^ツキ其志ヲ析^キ此ニ至ル不教ノ責ナシト云可クンヤ妻両全ノ策ナシト何ヲカ云ヤ日々祖母ノ目下ニ孝養シ耕耨^ヲ以テ國家ニ報ジ亡父ノ靈ニ祭仕セバ両全ノ策ナシト云可クン

ヤ今自盡シテ九牛ノ一毛報ゼズ盡サス其不忠不孝
 ノ罪大ナラズヤ東奔西走セザルヲ以テ不忠トスル
 乎亡父東奔西走ノ時ニ非ズ時勢ノ變遷視ルベキヲ
 察セズ一ヲ知テ其二ヲ知ラズ惜哉壯年ノ男子一燼
 烟下ニ没ス嗚呼我甲賀郡ノ隈隅斯ノ如キ人物アル
 實ニ義氣アリト云可キ乎將タ未ダ開化ノ域ニ進歩
 セザル頑愚ノ舉動ニ屬スル乎廣ク江湖文明多識ノ
 君子ニ質問シ兼テ世ノ父兄愛溺シ珠玉ノ子孫ヲシ
 テ瓦石トナラシメンコトヲ恐レ予ガ老婆心ヲ紙尾ノ
 餘白ヲ偷ニ塗墨ス

甲賀郡第四區水口村邊隅ニ寓スル

無何有舎主人

記者曰吏ヤ常ニ憂國ノ心厚曩ニ縣令松田公閣下へ
 建言セシ其概略左ニ掲グ

甲賀郡虫生野村農豊田吏謹デ白ス吏ハ固ヨリ餘力ナ
 シ故ニ不学且無智短戈頑愚ノ田夫論ズルニ足ラザル
 者也幸ニ文明ノ際ニ生レ御仁政ヲ蒙リ日夜喜躍ニ不
 堪手舞足蹈ヲ知ラス況ヤ執事此縣令タル吏一人ノミ
 ナラズ管下人民奉テ恩德ヲ頂キ國家ヲ富岳ノ安キニ
 置クト真ニ天降ノ君子ナリ且聞ク執事議事所ヲ設ケ

百方秀短ノ論ヲ容レ是非ヲ正シ以テ聽ルスト乃心ニ
欲シテ白サズンバ執事ノ貴意ニ戾ル也ト思慮シ恐レ
ヲ不顧鄙意ヲ陳シ叱正ヲ蒙ラント欲シテ左ニ貴覽ヲ
玉ハンコヲ冀フ

第一條戸長ヲ擇ブベキ事

戸長ハ其土地ノ人戈ヲ擇バズ旧家富家ヲ以テ其任ニ
當ツル憂フベキコニアラズヤ甚キハ御布告ノ意味詳
ニスル能ハザル者ヲシテ其任ニ當ツ故ニ御仁政ヲ蒙
リナガラ額ヲ蹙シ相告ルニ至ル斤時モ目前ニスベカ
ラザルナリ断然新洗シ以テ文明開化且御趣意ノ貫徹

一層早カラシムコトヲ冀クハ執事夫レ是ヲ正セヨ

第二條教部之事

野賤ノ身ヲ以テ堂々タル 皇國ノ教部ヲ議ス罪萬死
ニ當ルト雖モ恐ヲ不顧白ス夫レ教部ハ何ノ為メゾヤ
四民ヲシテ文明ノ域ニ入ラシメントノ御趣意ナラン
然ニ坊主輩ヲシテ大小ノ教正講議ニ任ズ却テ愚民ヲ
シテ佛法ニ服セシムルコト恰モ赤子ノ母ヲ慕フガ如シ
弥無根ノ妄説ニ惑溺シ何レノ日カ文明ヲ得ン断然有
名無實ノ説教ヲ廢シ全國へ学校ヲ布設シ斯ニ於テ教
正スルニ天理人道敬神愛國朝旨ヲ守リ萬物理ヲ窮ル

「ヲ要トシ学バシメ是ヲ教法トセバ安ゾ佛教ヲ用ユ
ルニ足ラン而シテ今ノ教部ノ如キハ有名無実ニシテ
政府疲弊ノ一端ナリ故ニ教部ヲ廢シ此費用ヲ以テ学
校ノ入費ニ補ハシ頗ル國家ノ為ナルベシ願クハ執事
此妄論ヲ免恕セヨ

第三條橋架料ノ事

支愚按ズルニ道路ニ橋アルハ行人ヲ煩サシラン為メ
ナルベシ然ニ其大小ニ應ジ行人ヨリ其料ヲ取ル是橋
架破損ノ一端ニ供スル名分ナリ故ニ行人モ其料ヲ出
サシルヲ得ズ然レモ橋ハ諸所ニアリ相互ニ其料ヲ出

入セズ往来セバ太ダ便ナラン其料ヲ取ルニ至テハ大
ニ行人ノ手足ヲ妨グルナリ如何トナレバ料ヲ出スニ
手ヲ煩ハシ近邑ニ至ルモ其料ヲ持タザレバ通行スル
「ヲ不得不便至極ナリ故ニ自今各橋架料ヲ取ル「ヲ
廢シ一ヶ月戸毎ニ銅貨一厘ヅ、橋架税トシ戸長之ヲ
集メ期限ヲ定メ縣廳ニ納メ都テ管内ノ橋架破損ハ其
管轄廳ニテ成サバ公平ハ勿論往来者ノ憂ヲ省クナリ
冀クハ執事夫レ是ヲ正セヨ

○ 太政官日誌 大藏卿大久保利通届書

私儀為特命全權副使歐米各國へ派出罷在候処昨夜歸朝致候此段御届申候以上

明治六年五月廿七日

滋賀郡園城寺山内上光院ニ於テ去月來說教ヲ開儀シ
毎月四九ノ日午前十二時迄說教アリ午後講究アリ神
官僧侶會講專ラ三則ノ御主意ヲ論說シ追々郡中へ分
臺シ隆ニ說教行ハルト云

○第七号七丁裏詩題二句目英謀ハ謨ノ誤字
○第八号二丁表十行日文部大木ハ卿ノ字誤落

琵琶湖新聞第十一號終

伏テ四方ノ君子ニ敬白ス既ニ官許ヲ蒙リ局ヲ開キ新聞ヲ刊行シ遐
邇僻陋マデモ擴メ遠近日新ノ景況ヲ告ゲ俱ニ開化文明ノ域ニ進マン
トヲ希望ス雖然耳目ノ届カザル多シ願クハ小大トナク事實書綴リ本
局又ハ所々出局取次所等へ出シ玉へ次第ニ出版致スベシ但遠路ハ殊
ニ報知ヲ希フ其書付ニハ何レモ其住所姓名ヲ載セ玉へ無名ノ書ハ敢
テ採入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ル

總テ望ニヨツテ出版スル事件大略

- 諸會社ニテ取扱ノ品々出入數量○物價ノ高低○新規發明ノ器械
- 諸開店ノ披露○田園山林家邸舟車等ノ賣買貸借○失物尋物
- 觀セ物集會等ノ披露○諸藝私塾開業ノ披露○諸產物家具食品藥劑
等一切ノ賣買○金銀貸借
- 右ノ外總テ世間ニ弘メ人ニ知ラシメントノ事情ハ何レモ一行廿二字
價三錢ニテ引受出版致スベシ

本局

近江國大津船頭町

琵琶湖新聞會社

大津濱通

原田 五郎助

古川

伊助

彦根桶屋町

高田 平三

長濱

田邊 耕平

鳥井本

平十郎

八幡町

木村 源造 取

八日市

福原邸左衛門

愛知川

清次郎

日笠町

上林嘉右衛門 次

守山

田中平右衛門

草津

水口驛

伏木八郎兵衛 所

本堅田

北村 清十郎

大溝

三矢 治兵衛

石部驛

小嶋金左衛門

海津

金谷 平三郎

取次所

東京芝大神宮前
西京寺町三条下
大阪本町通四丁目

山中市兵衛
神先宗八
書籍會社